

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年8月14日

**【四半期会計期間】** 第7期第1四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

**【会社名】** 株式会社ココカラファイン

**【英訳名】** cocokara fine Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 塚本 厚志

**【本店の所在の場所】** 神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目17番6号

**【電話番号】** 045 (548) 5929

**【事務連絡者氏名】** 上席執行役員経理部長 千田 吉裕

**【最寄りの連絡場所】** 神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目17番6号

**【電話番号】** 045 (548) 5957

**【事務連絡者氏名】** 上席執行役員経理部長 千田 吉裕

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第6期 第1四半期 連結累計期間	第7期 第1四半期 連結累計期間	第6期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	85,831	82,567	349,337
経常利益	(百万円)	2,542	835	9,495
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,310	355	3,598
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,306	379	3,626
純資産額	(百万円)	73,967	75,585	75,320
総資産額	(百万円)	150,469	138,376	139,305
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	51.50	13.96	141.46
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	49.2	54.6	54.1

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、従来、報告セグメントは、「ドラッグ・調剤事業」、「卸売事業」、「介護事業」としておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、「ドラッグ・調剤事業」、「介護事業」へ変更しております。報告セグメントの変更に つきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税や原材料・エネルギーコストの上昇など経営環境に影響を与えるリスクは依然として存在するものの、政府による経済政策の効果から、景気は回復基調を維持しております。一方、個人消費においては、消費税増税前の駆け込み特需の反動がありました。

当社が属するドラッグストア業界は、同業各社の積極的な出店や法的規制緩和による競争環境のめまぐるしい変化を受け、異業種を交えた業務・資本提携、M & A等の企業の生き残りをかけた統合・再編の動きが活発化しております。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいて記載しております。

#### ドラッグ・調剤事業

当社は「人々のココロとカラダの健康を追求し、地域社会に貢献する」の経営理念のもと、地域に密着したマーチャンダイジングの構築、ココカラクラブカードを核とする統一販促の浸透、人時生産性向上を中心とした更なる効率化運営を行う体制づくりを進めてまいりました。駆け込み特需の反動や、季節商品の不調等一時的な影響はありましたが、コア事業の運営体制刷新による質的強化を続けております。結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は82,033百万円（前年同期比3.9%減）、セグメント利益（営業利益）は318百万円（同84.8%減）となりました。

#### （出退店状況）

出退店につきましては、新規に5店舗を出店、1店舗の退店を行い、当第1四半期連結累計期間末の当社グループ店舗数は、以下のとおり1,356店舗となりました。

#### [国内店舗数の推移]

	平成26年4月1日 期首時点の総店舗数	出店	退店	平成26年6月30日 現在の総店舗数
株式会社ココカラファイン ヘルスケア	1,290	5	1	1,294
株式会社岩崎宏健堂	62	-	-	62
合計	1,352	5	1	1,356
（内、調剤取扱）	（227）	（2）	（-）	（229）

[国内地域別店舗分布状況（平成26年6月30日現在）]

地域	店舗数	地域	店舗数	地域	店舗数	地域	店舗数
北海道	31	富山県	3	奈良県	42	佐賀県	2
宮城県	2	福井県	2	和歌山県	27	長崎県	19
山形県	1	山梨県	3	鳥取県	14	熊本県	8
福島県	3	長野県	3	島根県	3	大分県	5
茨城県	3	岐阜県	21	岡山県	11	沖縄県	5
栃木県	6	静岡県	40	広島県	30	合計	1,356
群馬県	1	愛知県	105	山口県	78		
埼玉県	53	三重県	58	徳島県	4		
千葉県	21	滋賀県	11	香川県	7		
東京都	241	京都府	34	愛媛県	5		
神奈川県	58	大阪府	156	高知県	3		
新潟県	76	兵庫県	103	福岡県	58		

介護事業

営業体制の強化とコア事業であるドラッグ・調剤事業との連携強化に重点を置き収益改善に取り組んでおります。サービス付き高齢者向け住宅やりハピリ特化型デイサービス等の新規施設も順調に収益化が進んでおります。結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は533百万円（前年同期比19.6%増）、セグメント損失（営業損失）は48百万円減の23百万円となり業績改善が進みました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は82,567百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益は298百万円（同85.2%減）、経常利益は835百万円（同67.1%減）、四半期純利益は355百万円（同72.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、138,376百万円となり、前連結会計年度末に比べて929百万円減少いたしました。主な要因は、たな卸資産2,435百万円の増加、現金及び預金498百万円の増加、売掛金1,604百万円の減少、未収入金（その他）1,850百万円の減少、有形固定資産328百万円の減少、無形固定資産142百万円の減少、投資その他の資産436百万円の減少等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、62,791百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,193百万円減少いたしました。主な要因は、買掛金1,204百万円の増加、退職給付に係る負債963百万円の減少、未払法人税等1,289百万円の減少、賞与引当金803百万円の減少等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、75,585百万円となり、前連結会計年度末に比べて264百万円増加いたしました。主な要因は、配当金763百万円の支払いによる減少、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減した事による増加額648百万円、当第1四半期連結累計期間における四半期純利益355百万円による増加等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありませぬ。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の仕入実績、販売実績に著しい変動はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,472,485	25,472,485	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	25,472,485	25,472,485	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年6月30日	-	25,472,485	-	1,000	-	250

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 34,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,347,100	253,471	-
単元未満株式	普通株式 90,885	-	-
発行済株式総数	25,472,485	-	-
総株主の議決権	-	253,471	-

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式200株が含まれております。なお、「議決権の数」の欄には、同機構名義の議決権の数2個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式54株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株ココカラファイン	神奈川県横浜市港北区 新横浜三丁目17番 6号	34,500	-	34,500	0.14
計	-	34,500	-	34,500	0.14

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,062	8,560
売掛金	14,784	13,179
たな卸資産	42,645	45,080
その他	11,689	10,349
貸倒引当金	2	13
流動資産合計	77,179	77,158
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,408	13,195
土地	11,346	11,346
その他（純額）	3,782	3,667
有形固定資産合計	28,537	28,209
無形固定資産		
のれん	1,113	1,014
その他	2,086	2,043
無形固定資産合計	3,200	3,058
投資その他の資産		
敷金及び保証金	22,815	22,695
その他	7,799	7,446
貸倒引当金	226	190
投資その他の資産合計	30,387	29,950
固定資産合計	62,125	61,218
資産合計	139,305	138,376



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	37,181	38,385
短期借入金	7,800	6,900
未払法人税等	1,686	397
賞与引当金	1,872	1,068
ポイント引当金	2,119	2,099
その他	6,875	8,469
流動負債合計	57,535	57,320
<b>固定負債</b>		
退職給付に係る負債	3,909	2,945
その他	2,539	2,525
固定負債合計	6,449	5,470
負債合計	63,984	62,791
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	34,438	34,438
利益剰余金	40,016	40,256
自己株式	61	61
株主資本合計	75,394	75,634
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	137	149
退職給付に係る調整累計額	211	198
その他の包括利益累計額合計	73	49
純資産合計	75,320	75,585
負債純資産合計	139,305	138,376

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	85,831	82,567
売上原価	63,497	61,356
売上総利益	22,333	21,210
販売費及び一般管理費	20,311	20,911
営業利益	2,021	298
営業外収益		
発注処理手数料	297	281
受取賃貸料	206	216
その他	222	238
営業外収益合計	725	735
営業外費用		
賃貸費用	182	187
その他	22	11
営業外費用合計	204	198
経常利益	2,542	835
特別利益		
その他	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産除却損	-	1
賃貸借契約解約損	-	6
減損損失	65	15
関係会社株式評価損	-	10
その他	0	4
特別損失合計	66	37
税金等調整前四半期純利益	2,475	798
法人税等	1,165	443
少数株主損益調整前四半期純利益	1,310	355
少数株主利益	-	-
四半期純利益	1,310	355

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,310	355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	11
退職給付に係る調整額	-	12
その他の包括利益合計	4	24
四半期包括利益	1,306	379
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,306	379
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日至平成26年6月30日)	
(会計方針の変更)	<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。</p> <p>この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が1,030百万円減少し、利益剰余金が648百万円増加しております。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ13百万円増加しております。</p>

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日至平成26年6月30日)	
税金費用の計算	<p>当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。</p> <p>ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。</p> <p>なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びその他の償却費、のれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日至平成26年6月30日)
減価償却費及びその他の償却費	990百万円	901百万円
のれん償却額	144百万円	99百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	763	30.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	763	30.00	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	ドラッグ・ 調剤事業	介護事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	85,385	445	85,831	-	85,831
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	85,385	445	85,831	-	85,831
セグメント利益 又はセグメント損失( )	2,090	72	2,018	-	2,018

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,018
「その他」の区分の利益	-
セグメント間取引消去	2
全社費用	-
四半期連結損益計算書の営業利益	2,021

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	ドラッグ・ 調剤事業	介護事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	82,033	533	82,567	-	82,567
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	82,033	533	82,567	-	82,567
セグメント利益 又はセグメント損失( )	318	23	294	-	294

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	294
「その他」の区分の利益	-
セグメント間取引消去	4
全社費用	-
四半期連結損益計算書の営業利益	298

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントは、「ドラッグ・調剤事業」、「卸売事業」、「介護事業」としておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、「ドラッグ・調剤事業」、「介護事業」へ変更しております。

この変更は、前連結会計年度において株式会社ココカラファイン ヘルスケアに「ドラッグ・調剤事業」と「卸売事業」を集約したことに伴い、当第1四半期連結会計期間より「卸売事業」を「ドラッグ・調剤事業」に含めて業績管理する方針としたことによるものです。

また、当第1四半期連結会計期間より、上記業績管理方針の変更に伴い、報告セグメント別の経営成績をより適切に表示するため、全社費用の配賦方法を変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の方法により作成しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	51円50銭	13円96銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,310	355
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,310	355
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,438	25,437

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月13日

株式会社ココカラファイン  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渡	部	健	印	
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯	畑	史	朗	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	神	前	泰	洋	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ココカラファインの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ココカラファイン及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。